

Richard Sennett, *Flesh and Stone*

その4: The Obsessive Image

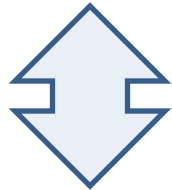
ハドリアヌス帝のローマ

2008年度大学院講義 後期

鈴木繁夫

フォーラムforum

- 長方形＋四辺を神殿で囲む
- 神々は互いに同意し調和している→階層化
- 人間は建物空間(バシリカ)内を前進・前方直視
- ←建物正面にだけいる
- ←装飾は前正面だけ



- パルテノン神殿 ←複数の視点にさらされる
- ←外面を視線がなめまわす

市民の画一化

- フォールム：法律・政治・儀式だけの場所
- 演説は儀礼的宣誓 ~~政治参加~~
- 「信用はフォールムのなかで復活し、争いはフォールムから追放され、マルティウス競技場からは官職嘆願が、そして元老院議場の不和が追放された。長く埋もれていた正義、公平、勤勉が国家に復活し...劇場の乱闘は静まった。誰もが、正しいことをする気持ちに満たされるか、正しいことをするようにと強要されていた。」(ウェッレイウス・パテルクルス)

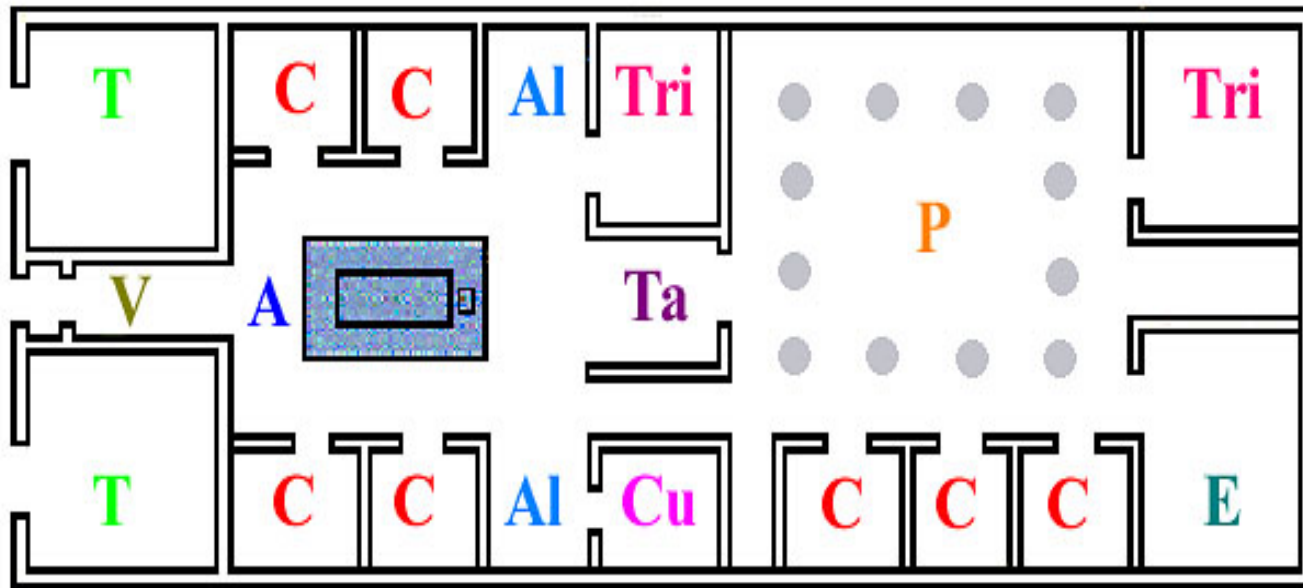
ローマの家庭

- 妻に財産権があり、遺産は男女に分配された
- 夫婦はともに横になった。
- 動線が直線、ドアが無く、垂れ幕
- どこまで入れるかは、親しさ・身分による
- 食堂では寝台が決まっている



明瞭な方向性

すべては虚構



A	atrium	formal entrance hall
Al	ala	"wings" opening from atrium
C	cubiculum	small room; bedroom
Cu	culina	kitchen
E	exedra	garden room
P	peristylum	colonnaded garden
T	taberna	shop
Ta	tablinum	office; study
Tri	triclinium	dining room
V	vestibulum	entrance hall

<http://www.vroma.org/~bmcmanus/house.html>

不可能な妄念→孤独

Animula uagula blandula ああ飛び去りゆく小さな魂よ、この私の
hospes comesque corporis 体の客人にして仲間よ、
quae nunc abibis in loca 青ざめ、こわばり、飾りもなく、
pallidula, rigida, nudula, いつものように冗談を飛ばさずに
nec, ut soles, dabis iocos“ いまどこに行こうとするのか

ハドリアヌス帝

「神々が存在するのをやめ、キリストがいまだに訪れ
なかった、歴史上のまさしく稀な時期、すなわちキケ
ローとマルクス・アウレリウスの間中期に、人間は孤
独であった」(フロベール: Marguerite Yourcenar)

時間の流れに打ち勝つ新しい人間

The world recedes; it disappears!
Heav'n opens on my eyes! my ears
With sounds seraphic ring!

Lend, lend your wings! I mount! I fly!

O Grave! where is thy victory?

O Death! where is thy sting?

世界は下がり、消えていく!

天は開き、私の目にのしかかる。

私の耳には天使たちの音が響く。

翼を貸して、貸してくれ! 昇るのだ! 飛ぶのだ!

墓よ! お前の勝利はどこだ。

死よ! お前の針はどこだ。

アレクサンダー・ホープ